

杖突峠

杖突峠のある杖突街道は、秋葉街道であり、歴史的に諏訪地方と伊那地方を結ぶ古い街道である。もともとは、諏訪市中洲神宮寺から、茅野市宮川高部を経て、杖突峠へ上がるのだが、杖突峠へ到る道は、他に数本存在していた。

武田信玄もこの峠を越えて高遠城の高遠頼継を攻略した。天文 14 年(1545 年)4 月、雪解けを待った信玄は甲府を出陣し、一度諏訪の上原城(茅野市)に入城した。そして上原城から一気に杖突峠を駆け下り、電撃的な侵攻を行った(高遠合戦)。これにより、信玄は伊那谷北部への足がかりを築くことに成功した。

信玄が通る 3 年前の天文 11 年(1542 年)9 月、高遠頼継の軍勢が、伊那から杖突峠を越えて諏訪攻めを行った(宮川の戦い)。

武田氏が滅亡する天正 10 年(1582 年)2 月~3 月の「甲州征伐」の際には、織田信長・信忠の軍勢が、武田軍を破って伊那側から杖突峠を越えて諏訪へと進軍している。このように、杖突峠は戦国時代の非常に重要な大動脈(軍用道路)だった。(川端紅葉著 2026・9・8)



「伊那北行き」の国鉄のボンネットバスが、急峻な峠道を黒煙を吐きながら力を振り絞って登って行った。諏訪大社の神宮寺はこの峠の下にあり、諏訪湖は北西の位置にある。一本の道路沿いに中金子の中州小学校付近の集落がみえる。JR 中央線や国道は北側の山の麓を通っている。

「杖突峠から見る諏訪湖方面 昭和 30 年代」

(茅野市企画部地域戦略課・茅野市八ヶ岳総合博物館提供)